

英 語 科

教科の重点目標 自立した学習者の育成 ～英語の「量」に負けない生徒を育てる～

	学習指導に関する現状と課題	授業改善のための具体的な取組	補充・発展的な学習指導の計画（具体的な取組の目標値や評価規準等）	今年度の評価（成果と課題）
第2学年	<p>◎考える力を育てる観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多量の英語を読んだり聞いたりする際に、分からない語句や内容があっても理解しようとする姿勢が身につけてきている。 <p>《聞くこと・話すこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業では分からない英語も根気よく聞き続け、既知の単語や視覚的な情報から内容を推測する力がついてきている。話すことにおいては、自分の知っている単語や文法を組み合わせ、相手に伝えようとする姿勢が見られる。 <p>《読むこと・書くこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読むことに関しては、多くの生徒が発音を意識し、ジェスチャーを付けて教科書を音読できるようになっている。しかし、また、所見の英文は内容を推測しながら読み進めることができている。 ・書くことに関する課題は、綴りや文法の間違いがなく、正確に書く力が備わっていないことである。 <p>◎生徒による授業評価からの観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「昨年度に比べて英語が聞き取れるようになった。」の項目では90%以上の生徒が肯定的な回答をしていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、英語で授業を行い、英語を推測しながら聞き続けるようにさせる。 ・教科書の内容については毎回の導入でオーラルイントロダクションを行う。 ・引き続き間違いを恐れずに話そうとする姿勢を育てる。今後も授業で英語を使用する環境をつくり、英語を聞くこと・話すことへの抵抗感を抑える。 ・音読は授業の中で重点的に扱う。主体的に音読をすることができるために、個別に確認をし、正確に読めるように指導する。 ・英作文の問題演習を増やし、文法的に正しく書くことを目指す機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業の中ではインタラクティブな授業を行うことにより、さらに理解を深める。 ・英語でピクチャーカードを説明することにより、日本語を介さずに英語を理解できるようにする。 ・学期に1回以上パフォーマンステストを行う。「発表」の領域ではスピーチスキットを行い、「やりとり」の領域ではAETとのインタビューテストを行う。 ・パフォーマンステストの後にはその映像をクラスで見る機会を設ける。それにより、自分に不足している部分が客観的に理解できるようにする。 ・ライティングノートの指導を通し、書くことへの抵抗感を抑える。また、一文に語数制限を設けて、長い文をたくさん書くことを課題とする。さらに、発展的な内容として、つながりのある文を書かせる課題を課し、まとまりのある文章を書けるようにする。 ・毎回の授業の中で1回以上辞書を使用する場面を設定し、自立した学習者の育成につなげる。 	

